



長さんが理事長を勤められる、保育園の事務員を募集しているというので、私に手伝ってもらえないかな、というお話を、たびたび頂いておりました。私は難しいと思っており、前向きなお返事を返せずにいたんですが、7月15日の月次祭を終えた翌日に、前会長さんから着信が何件もきていました。驚いてかけ直すと、さくらぎ保育園のこと、ちよつと手伝ってもらえないかな、というお話でした。私は迷ったのですが、改めてお断りしたところ、前会長さんは「そうかあ、祐生、どうかなあと思っていたんだけどなあ、でもありがとう」と、言われて、電話を切りました。

しばらく、その時の前会長さんの少し残念そうな声が、耳から離れませんでした。なぜ、そんなに声をかけてくださるんだろうなと思っていました。

そしてその翌月、まったく思いもよらない前会長さんのご身上も、もう本当に信じられず、残念でなりませんでした。

心が整わない中、葬儀の準備にかりましたが、準備中、斎場の名前が目に留まりました。ここは、2月に前会長さんにお伴して、葬儀を勤めた場所だ、と、思い出しました。そして、控室で前会長さんと沢山お話ししたことを思い返しました。前会長さんはもしかしたら、ここでお話しした私の教会での生活などの話から、色々と考えて

下さって、さくらぎ保育園へ仕事に来てみないか？と、親心をかけて言っただけだったのかと、線が一本に繋がったような思案に至り、しばらく呆然としていました。本当にずっと、心をかけて下さっていたことに、改めて、前会長さんに御礼申し上げます。



悲しみが残る9月22日の夜、妻の携帯が突如鳴りました。妻の家の電話で、母が倒れて救急搬送された、とのことでした。妻は翌日すぐに福岡へ飛び、母のもとへ駆けつけました。心臓周辺の血管が詰まって心停止を引き起こして、脳に酸素が回らない状態が、長時間続いてしまった。厳しい容態であることを告げられました。私と子供達も、あとから福岡へ飛び、出来る限り母に寄り添いながら過ごしてきましたが、約3か月後の12月17日、77歳で出直されました。

相重なる、親神様からのメッセージ。心が追いつかない、というのが、私の正直な思いです。参拝しているときに、「なんで？なんで？」と、子供が親に駄々をこねるように、問いかけたりしたこともあり

論達第四号を、改めて読み返すと、『教祖は、ふしから芽が出る。と、成ってくる姿は、すべて人々を成人へとお導き下さる、親神様のお計らいであると諭され、周囲の人々を励まされた。さらには、人たすけたら我が身たすかる、と、ひたすら、たすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくと、お教え下さった』とお示し下さっています。この論達に、その問いに対する答えが、詰まっていると思いました。教祖のお諭し、励ましのお言葉。そして、ひたすらに人様のたすかりを願うところに、いつしか私たちの心が澄み、明るく陽気に救われていく。

この論達の思いが、私に与えて下さった、親神様からのメッセージに、お応えする歩み方、通り方なのかと、思案をしています。最後に、今から3年前、2022年5月、長沼分教会創立百周年を終えて、前会長さんから頂いたメールを読ませて頂き、お話を終わらせて頂きます。

『今日の百周年、喜びのおつとめ。おめでとう、そしてありがとうございます。皆様ご苦勞様でした。喜びも涙もある中を、通り抜けたからこそ、その道が今、輝いて、よみがえるのだからね。感動しました。まだまだこれから、楽しみな道は、続くことを信じています』

親神様、教祖はもとより、前会長さん、また、九州の母に喜んで頂けるように、努力していきたい

と思えます」と話した。

大教会長はあいさつで「今月、栃木県で年祭をさせてもらったんですが、霊様の息子さん夫妻に、非常に親切にして頂きました。これまで前会長さんが言葉掛け、心を掛けてこられた事が、相手の方にと残っているんですね。前会長さんの詩いた種は本当に色々などころにあるんだと、実感させられました。

以前、『東京オリンピックの開会式に皆で出よう』という、何度か大教会でも集まって小鼓の練習をしたことがありました。講師は歌舞伎の舞台にも出られる先生でしたが、アシスタントをして下さった女性の方が、お道の人なんです。当時、何度かその方の所まで出稽古に行つて、一緒に小鼓を練習していました。ある時、帰ろうとすると、その女性の方が『兄が会いたい、というので会いに行つてもらえないか』と仰るんです。この方のお兄さんは会社を持っていたような立派な方でしたが、宗教に頼るのは弱い人間だ、と鼻で笑うような人で、妹さんのおいかけにも聞く耳を持たなかったそうです。しかし、身体の具合が悪くなつて、思うところがあったのか、妹のところへ天理教の若い者が来ていると聞いて会いたくなつたようです。

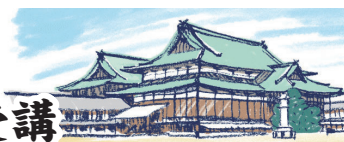
お会いして、働いていた頃の話など、延々と聞いておりましたが、帰り際その方が『これからは私も

親神様の教えに基づいて、守って生きていきます』と僕に頭を下げてたんです。妹さんもびつくりして、これから兄もおちばへ帰つてくれるかもしれない、と思つたそうです。しかし、お会いして2日後には出直していかれました。出直された後、妹さんから連絡があり、『何十年と、においのかからなかつた兄がようやく、と思つた矢先だったので辛くて…』と仰るので、意識のない、出直すまでの間というのは、心の中で教祖にお会いする時間じゃないかと思うんです。そこで教祖に、今度生まれてくる時は道の子として生まれてくるんだよ、とお仕込みをしてもらつているんだ、とお話させて頂きました。その言葉を聞いて、心が晴れました、と言っただけだったので6年前の事でした。

先日久々にお会いして、お兄さんの霊様を参拝しましたが、『あの時来て下さったのは、神様からのご褒美のように思つた』と嬉しい事を言われました。それもこれも妹さんの長年の種蒔きですよ。出直した際、家族や周りの者は辛い思いをする事もありますが、その時間も、神様から与えられた意味のある時間だと思います』と話された。また、8月30日に前会長一年祭を勤める事、それに合わせて追悼集を発刊する事を発表し、参拝者それぞれに追悼集への寄稿をお願いされた。

# 夫婦の心を揃え再出発

## 教会長資格検定講習会を受講



1月27日～2月17日  
清真布分教会  
渡部修太・はづき

期間中は、様々な事柄を、身上や事情にお見せいただき、少しは自分の信仰を深める事ができたかなと振り返ります。

その一つが、夫婦の心です。クラスの自己紹介をひと通り終えると、私たちの隣の席の方が、いずれもパートナーを亡くしているという事に気が付きました。私たちはまだ結婚4年目という事もあり、日々仲良く通れているという自負がありました。しかし、夫婦は道の台ともお教えいただくように、信仰者としては仲が良いだけではいけないのかもしれない、そのように感じたのが、先の方々の姿に加えて、後に長男と妻の眼に、立て続けにしるしを頂いた事です。眼は芯、そして二つで一つの働きを成します。日々妻を潰してしまっている事はないかな、と改めて立ち止まって思案してみた時、いくつか思い当たる節がありました。その心を妻、そして教祖にお詫び申し上げ、信仰に生きる夫婦として再出発する門出となりました。



この度、家族4人でおぢばへ帰らせていただきました。3週間もおぢばへ置いていただける喜びで胸がいっぱいな中始まりましたが、次々と身上にお見せいただき、考えさせられ、あっという間に過ぎていった3週間でした。

次男が発熱した時は、40℃もの高熱が3日も続き、自分の胸に手を当て懺悔し、思案を重ねるも一向に下がらず、辛そうな息子を見ていると本当に可哀想で、気持ちが沈んでいくばかりでした。そんな次男を寝かしつけていたある夜、襖を隔てた隣の部屋では、夫が長男に絵本を読んでいた。すると長男が、「おとうさんおつとめしてー？」と言うので、なぜかと聞いてみると、「おやさまきてるから」と言います。まさかと思いながら夫が、教祖は何色？と聞くと、「あかだよ」と、教えてもいないことを言うのでとても驚きました。気持ちが沈んでいたところに来てくださったこと、本当にありがたく勿体ないなあ、親神様に凭れて通ってれば、何も心配はいらないんだなあ、ということに改めて気付かされました。

また、私の身上にも見せていただき、元気で置いていただけることの有り難さ、尊さを改めて痛感しました。そして、講習の授業や夫の助言から、朝目覚めたらまず

もう一つは、「神様にもたれる」というのはどういう事なのかという事を、子どもの身上を通してお教えいただきました。そして、おさづけを取り次がせていただく際の心の置き所にも変化がありました。目の前の人を「たすけてください」「御守護ください」というのがこれまでの私でしたが、そうではないという事に気が付いたのです。

―― 神様は、常々私たちを成人させてやりたいと手招きしてくださっている。その為の第一関門として胸の掃除、そして心定め。おふでさきにもあるように、一方的に願をかけるのではなく、心さえ入れ替えれば、あとは神様に全てをゆだねる、これが道の順序なのだ――  
このように気が付いた時、心がふと軽くなり、今の自分にできる事はなんだろうかと、それだけが頭に残りました。こうなると不思議なもので、子どもの熱は下がらなくとも、案じ心よりも勇み心で充ちる自分がいました。おたすけをさせていただく基本の心構えを、お仕込みいただいたように思います。

その他、たくさんの事を見聞きする中にも、多くの方のご支援を賜り、又とない家族揃ってのおぢばでの修養生活を結構に送らせていただきました。ありがとうございました。  
渡部修太



親神様にお礼を申し上げること、こんなに素晴らしい体をお借りしているんだから、体が喜ぶ、神様に喜んでもらえる使い方をさせていただこうと決めました。子どもが寝ている早朝や、講習の休み時間など、限られた時間の中でひのきしんをさせていただくうちに、身上はすっかりご守護いただき、家族4人元気に揃って、おぢばでの生活を終えました。

息子や自分の身上を通して、親神様に凭れていれば何も心配いらぬということ、夫婦心を揃えて足並み揃えて歩いていくことの大切さを学びました。そして、教祖はご存命でいつも私たちにとって一番良いようにご守護くださり、親心いっぱい私たちをお導きくださっていることを忘れず、いつも教祖を感じながら日々通っていきたいと思います。

そしてこの3週間、詰所の方々をはじめ、たくさんの方に支えられて、やっと通り切ることができました。ありがとうございました。  
渡部はづき



## 藤田文雄さんを偲んで ——絆と感謝のひととき——

2月25日午後6時より、おちばの夕張詰所で、藤田文雄さんを偲ぶ会が開催され、(発起人、柏木大明、東中央大教会長)教内外、またおちば周辺で親交の深かった方々50名程が駆けつけて、夜が更けるのも忘れ、前会長さんとの思い出話が尽きることはなかった。

まず主催した、柏木先生が皆さんを代表して挨拶し、次いで美重子前奥様が、出直された時の様子、前会長様のモットーなどお話しされ、偲ぶ会が始まりました。

養徳社のユーチューブコンテンツ『ふふさんぽ』のスタッフのお話では、コーヒー専門店で、たくさんウンチクを聞いたのに、紅茶を注文した、というズッコケ話やされたら、そんなユーモラスなお話と全国どこへでも、軽快に動き回ったお話がたくさん聞かれました。

最後に、藤田大和教会長が、『前会長の1年祭に向けて、父との思い出をお書き頂いて、冊子としてまとめた』と話が出て、締めとなりました。

お近くの会場は

「教区・支部情報ねっと」で  
ご確認ください



# 立教188年

## 全教一斉ひのきしんデー

### 成人の旬 一手一つにひのきしん

# 4月29日



## 境内建物に 積雪深く被害

2月21日、ひのきしん者数名が集まり、病院側物置に対し、雪の重みに対する仮補強を行った他、廊下屋根の雪降ろしや、歩行者の安全を確保するための植木の枝払いを実施した。

しかし、今年は雪降ろしの優先順位を後にしていた建物に被害が発生し、第2客間に隣接する物置



雪を落とし枝払い

### にいがけ実動について

#### ◇活動報告

日時：2月28日 10時～15時

場所：岩見沢市内

参加人数：1名

内容：十二下りお願いづとめ、

神名流し(大教会周辺を

約40分)、戸別訪問(35件)

#### ◆次回以降実施予定

日時：3月31日 10時～15時

4月30日 10時～15時

集合場所：夕張大教会

の軒が折れ、裏庭の大物置の屋根と骨組みが大きく損壊する事態となった。

## 庶務部 2月

### ▽初席

坂井 政美 (直轄) 2・25

金森 正明 (直轄) 2・25

▽教会長資格検定講習修了(2・17)

渡部 修太 (清真布)

渡部 はづき (清真布)

### ▽詰所教養掛

3月 梶川創一郎(新生生)【詰所】番

4月 藤田 豊(幌都)

高橋 悟志(祝梅)【教養助手】

## 大教会日誌抄 2月

1日 たすけ推進会議、役員会議

会長、関東へ

4日 会長、関東からおちばへ

会長夫人、組例会

7日 会長、帰会

10日 会長、保護司研修会

12日 会長、信者宅年祭

14日 月次祭準備

15日 月次祭

17日 会長夫妻、夕喜元巡教

19日 会長夫妻、札月次祭

23日 会長、前会長夫人おちばへ

24日 会長、本部神殿当番

25日 藤田文雄氏を偲ぶ会(詰所)

26日 本部月次祭、遥拝式

27日 会長、かなめ会

会長、前会長夫人帰会